

# 令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の結果

## □ 1 調査の目的

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものであり、次のことを目的としている。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## □ 2 調査の対象学年

国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年 原則として全児童生徒

## □ 3 調査の内容

### （１）教科に関する調査 【小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

### （２）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

小・中学校ともに、タブレット端末からオンライン回答

○児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## □ 4 調査期日

教科に関する調査：令和 8 年 4 月 23 日（木） ※全国一斉実施

質問調査：小学校 令和 8 年 4 月 24 日（金）～ 5 月 8 日（金）の決められた日

中学校 令和 8 年 4 月 20 日（月）～ 4 月 23 日（木）の決められた日

## □ 5 調査を実施した児童生徒数

|         | 児 童 数          | 生 徒 数          |
|---------|----------------|----------------|
| 全 国（公立） | 9 4 2, 5 5 1 人 | 8 5 6, 5 3 4 人 |
| 全 国（国立） | 6, 1 1 0 人     | 9, 3 5 0 人     |
| 全 国（私立） | 6, 4 4 3 人     | 1 4, 9 3 4 人   |
| 青森県（公立） | 7, 9 3 6 人     | 7, 6 9 8 人     |
| むつ市     | 3 1 2 人        | 3 4 5 人        |

## □ 6 学力調査の結果

### 1) 全国の平均正答率を「100」とした到達率及び全国・青森県・むつ市の平均正答率

※報道等による順位競争の過熱化を防ぐため、平成29年度から、都道府県・市町村の平均正答率の数値は整数値での発表となっている。

※教科間及び学年間の定着度の差異を把握するため、ここでは上記指標を用いている。

☆→前年度の小学校6年生及び中学校3年生との異集団比較

◇→中学3年生は令和5年度（小学6年時）との同一集団比較

### ■令和8年度 小学校6年生



#### 国語、算数

国語、算数ともに  
全国平均、県平均を下回る。

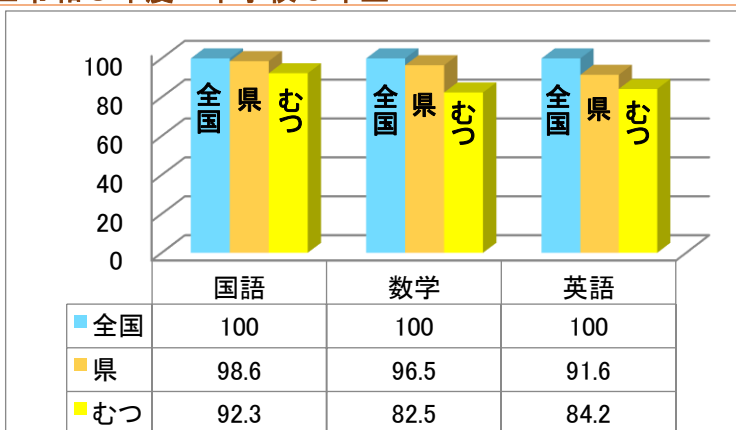
#### \* 令和8年度平均正答率

|     | 国語   | 算数   |
|-----|------|------|
| 全国  | 60.9 | 56.4 |
| 青森県 | 60   | 55   |
| むつ市 | 54   | 49   |

#### ☆ 令和7年度平均正答率

|     | 国語   | 算数   |
|-----|------|------|
| 全国  | 66.8 | 58.0 |
| 青森県 | 67   | 57   |
| むつ市 | 63   | 54   |

### ■令和8年度 中学校3年生



#### 国語、数学

3教科とも全国平均、県平均を  
下回る。  
特に、数学が課題である。

#### ◇ 令和5年度（小学6年時）平均到達率

|     | 国語    | 数学    |
|-----|-------|-------|
| 全国  | 100   | 100   |
| 青森県 | 104.2 | 100.8 |
| むつ市 | 96.7  | 92.8  |

#### \* 令和8年度平均正答率

|     | 国語   | 数学   | 英語   |
|-----|------|------|------|
| 全国  | 63.9 | 57.0 | 54.6 |
| 青森県 | 63   | 55   | 50   |
| むつ市 | 59   | 47   | 46   |

#### ☆ 令和7年度平均正答率

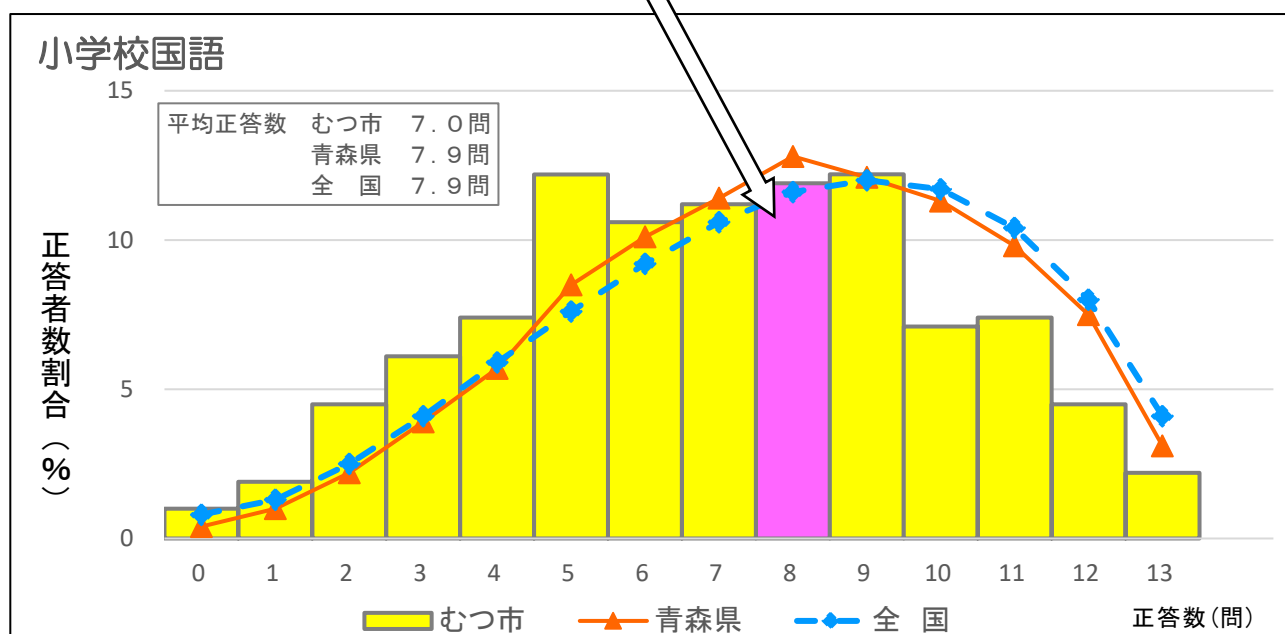
|     | 国語   | 数学   |
|-----|------|------|
| 全国  | 54.3 | 48.3 |
| 青森県 | 54   | 46   |
| むつ市 | 52   | 40   |

## 2) 各教科の正答数分布グラフ（むつ市→柱状グラフ、青森県・全国→折れ線グラフ）

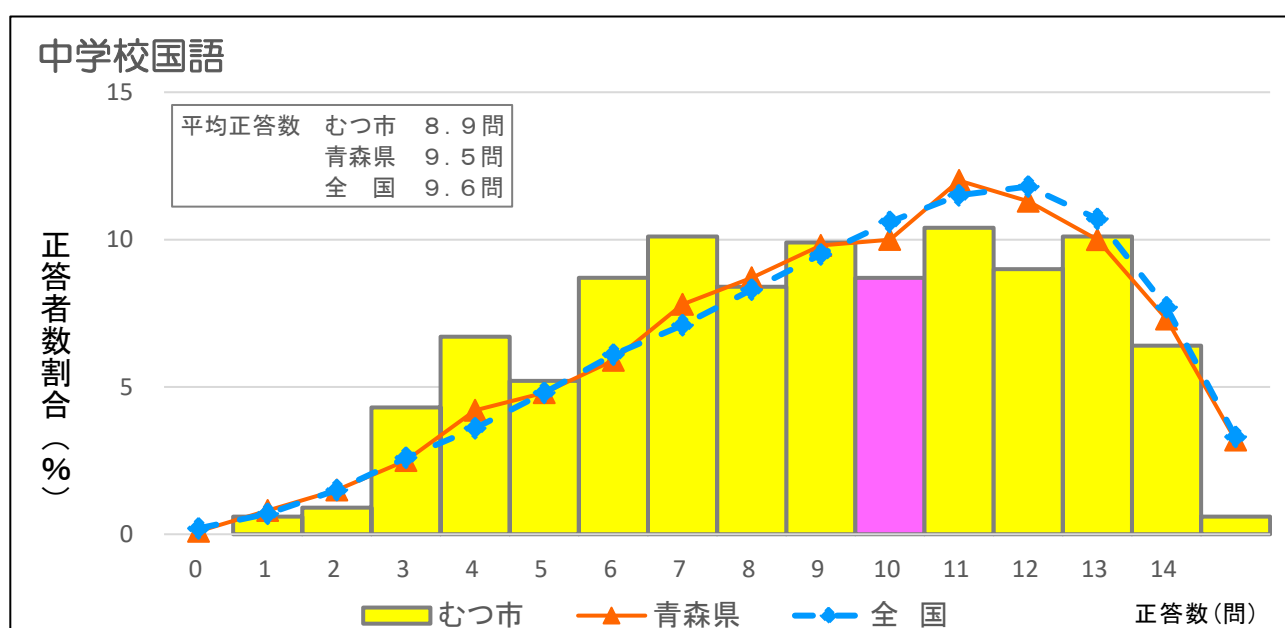
※横軸は正答数、縦軸は正答者数の割合を表している。

※中学校英語はＣＢＴ方式（タブレット端末からの解答）であり、出題内容に個別問題が含まれていることから、正答数分布は公表されていない。

※濃い色の部分は、全国及び県の平均に到達するために必要な正答数を表している。

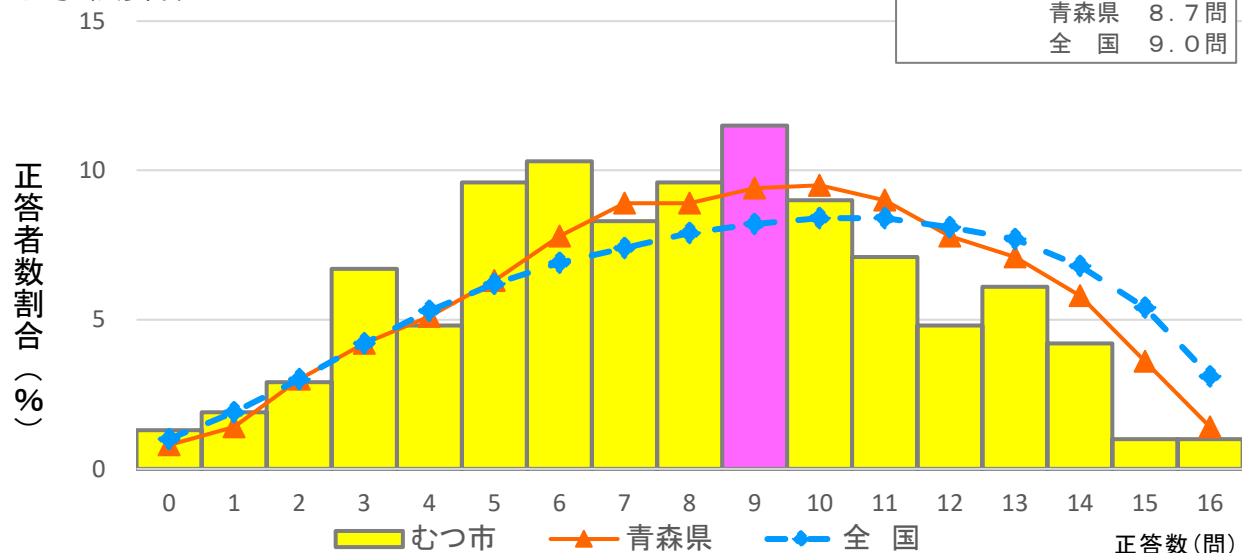


\*全国や青森県と比べ、上位層が少なく、下位層が多くなっている。底上げに向けて、身に付ける力や高める力を明確にした単元構成、児童自身が「国語の力の高まり」を実感できる言語活動の工夫など、学習意欲を高めながら確かな理解と定着を図る授業づくりが必要である。



\*全国や青森県と類似の形状となっているが、やや下位層が多い。小学校同様、生徒が国語の力の高まりを実感できる言語活動の工夫など、学習意欲を高める授業づくりに努めるとともに、個別指導が必要な生徒に配慮しつつ、ねらいを高く設定した授業を展開する必要がある。

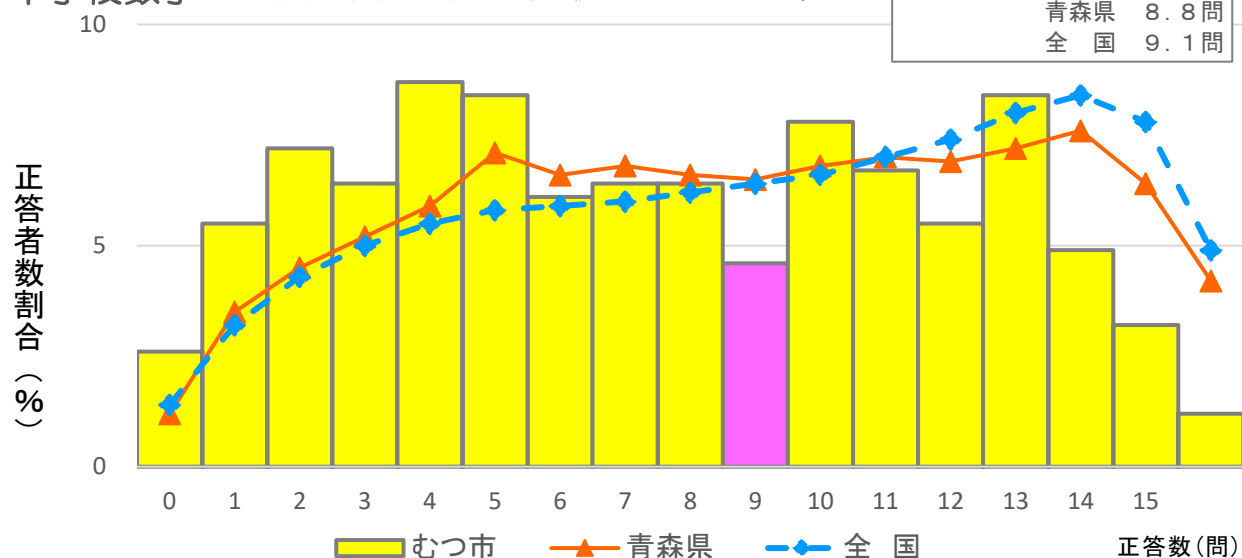
## 小学校算数



\*全国や青森県と比べ、上位層が少なく、下位層が多くなっている。習熟度別学習を含め、レディネステストなどで児童の定着度を確かめながら個別最適な学びを目指した授業による下位層の底上げが求められる。また、学年や領域の系統性を意識した授業づくりによる学びの積み重ねが大事である。

## 中学校数学

※中学校数学のみ縦軸の最大値を10%にしている。



\*全国や青森県と比べ、上位層が少なく、下位層が多くなっている。習熟度別学習や個別指導、デジタル教材等を活用した学習を通して基礎・基本の確かな定着を図る必要がある。また、小学校同様、学年や領域の系統性を意識した授業づくりによる学びの積み重ねが大事である。

## 小学校 6 年国語

### 身に付いてきている力

- ① 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える力
- ② 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力

### 育てたい力

- ① 話や文章の種類とその特徴について理解する力〔5・6年 知識及び技能（1）力〕
- ② 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力〔5・6年 知識及び技能（2）イ〕
- ③ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力〔5・6年 A話すこと・聞くこと（1）ウ〕

## 中学校 3 年国語

### 身に付いてきている力

- ① 単語の類別についての理解
- ② 表現の効果を考えて描写する力

### 育てたい力

- ① 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる力〔2年 A話すこと・聞くこと（1）オ〕
- ② 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだす力〔1年 B書くこと（1）ウ〕
- ③ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力〔1年 C読むこと（1）オ〕

小・中学校双方において、学習指導要領で求められている「**自分の考えを根拠とともに明確にし、互いの意図を理解し合いながら言葉でつなぐ力**」に、より一層の重点化が必要であることが見えてきました。小学校6年・中学校3年で求められる「育てたい力」を手がかりに、**小・中9年間を見通した授業改善のポイントを3つの共通視点として整理**しました。各学校における日々の単元指導計画や授業実践の参考としてご活用ください。

#### ①「根拠」を活用し、論理的に考えや構成を組み立てる指導の充実

単に「資料を使う」「言葉を知る」ととどまらず、「なぜその情報（言葉）を選ぶのか」「自分の考えとどう結び付いているのか」を意識させる場面を設けます。学習した語句や資料を「考えの根拠」として効果的に使う活動を、小・中を通して系統的に取り入れます。

#### ②「対話（協働的な学び）」を通した、考えの練り上げ・検証の日常化

一方的な発信で終わらず、「相手にどう届いたか」「よりよく伝えるにはどうすべきか」という他者とのやりとりを通した推敲・検討のプロセスを重視します。小・中ともに、ペア・グループワークの中で「互いの意図を受け止め合い、結論や文章をブラッシュアップする場面」を意図的に設定することが鍵となります。

#### ③「言語活動」と「知識・技能」の往還による、活用できる言語能力の育成

単元導入場面での一斉指導やドリル的な演習にとどめず、実際の言語活動（スピーチ、話し合い、文章作成）の最中に「この語句や関係付けの知識がどう活きるか」を実感させます。知識が活用され、実際の表現に結実するスパイラルな授業デザインを小・中全体で推進します。

今回の調査結果を「点数」として捉えるのではなく、**子どもたちが生涯にわたって社会を生き抜くための「言葉の力」としてどのように花開かせるかという視点で**自校の取組をご点検ください。

## 小学校 6 年算数

### 身に付いてきている力

- ① 立方体の体積の計算による求め方についての理解
- ② 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくる力

### 育てたい力

- ① 日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述する力〔2年 A数と計算（2）ア（ア）〕〔3年 Dデータの活用（1）ア（ア）〕
- ② 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ力〔4年 A数と計算（4）ア（ア）〕〔5年 C変化と関係（3）ア（ア）〕
- ③ 異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する力〔4年 A数と計算（5）ア（ア）、イ（ア）〕〔5年 A数と計算（4）ア（ア）、ア（エ）、イ（ア）〕
- ④ 二次元の表から、条件に合う数を読み取る力〔4年 Dデータの活用（1）ア（ア）〕

## 中学校 3 年数学

### 身に付いてきている力

- ① 具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表す力
- ② 事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てる力

### 育てたい力

- ① 筋道を立てて考え、証明する力〔2年 B図形（2）イ（イ）〕
- ② 箱ひげ図と四分位数の対応についての理解〔2年 Dデータの活用（1）ア（ア）〕
- ③ 反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求める力〔1年 C関数（1）ア（イ）〕
- ④ 起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求める力〔2年 Dデータの活用（2）ア（イ）〕

### ①学びのつながりを意識した指導

特に算数・数学では、学習内容の系統性が明確であるため、担当する学年だけでなく、前後の学年とのつながりを意識して指導することが重要です。児童生徒がこれまでに何を学び、これから何を学ぶのかを捉えることで、学習内容をより効果的に関連付けることができます。授業のねらいを的確に設定し、系統性を意識して指導するためにも、学習指導要領解説の確認が必要です。

### ②算数・数学における「数学的活動」を大切にしたい授業づくり

授業では、計算方法や公式を覚えるだけでなく、数量や図形の意味を理解し、既習の知識を活用して考えることを大切にします。「なぜそうなるのか」「どのように考えたのか」を児童生徒自身が考え、図や式、言葉などを用いて、根拠をもって説明する活動を充実させることが重要です。

また、教師が問い返したり、友達の考えと比較させたりすることで、思考を深め、数学的に説明する力を育てることができます。そのため、答えを求めるだけでなく、考える過程や根拠を大切にし、学んだことを振り返って次の学びにつなげる授業づくりが鍵となります。

さらに、具体物や日常生活の場面と学習内容を結び付けたり、複数の考え方を比較したりすることで、学びをより深めることができます。児童生徒が自分の考えを見直し、新たな疑問や気づきを次の学習につなげられるようにすることも大切です。

### 身に付いてきている力

- ① 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る力
- ② 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取る力
- ③ 日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉える力

### 育てたい力

- ① 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く力  
〔（２）読むこと ウ〕
- ② 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する力〔（５）書くこと ア〕
- ③ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く力〔（５）書くこと イ〕

本市生徒には「要点を捉え、まとまりのある文章で自分の考えを書く力」に伸びしろが見られます。教科書「を」教えるのではなく、教科書「で」必要な資質・能力を育てる授業改善に向け、以下の点を大切にしていきたいと思います。

#### ①単元末などのゴールから逆算した、教科書「で」教える指導計画

教科書は教える「対象」ではなく、生徒の資質・能力を育むための「教材」の一つです。まずは「学年末や卒業時までにどのレベルを目指すか」という見通し（CAN-DOリスト）の確認が必要です。その上で、生徒の現在の学習段階を確実に見極め、そのレベルに適した活動になっているか、そして目標レベルへ引き上げるために何が必要かを考え、単元の目標へと向かうバックワードデザイン（逆算）による指導計画を設計します。限られた時間の中で力を付けさせるために、育成すべき力・ねらいを明確に絞り込み、教科書を効率よく活用しながら見通しをもった指導を行うことが大切です。

#### ②ドリルから活用する力へつなぐ「インプット・インテイク・アウトプット」の指導

まとまりのある文章を読んだり書いたりする力を高めるためには、段階的な活動のステップが不可欠です。「読むこと」では、一文の直訳のみならず、まとまりのある文章から要点（最も伝えたいこと）を判断する力を養います。「書くこと」では、語彙や文法規則、語順等を土台としつつ、「導入・本論・結論」や「主張・根拠」といった文章構成を意識させ、自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える力を高めます。インプットからインテイク（取り込み）を促し、表現（アウトプット）へのつながりをイメージした指導を意図的に授業へ取り入れながら、テーマに関連した対話や記述活動を、最初は短く、徐々に長く展開していくなど、指導を工夫しましょう。

限られた時間の中で生徒の英語力を高めるには、指導の見通しと段階的な活動のステップが鍵となります。本調査結果も踏まえ、指導計画や日々の授業を見直し、授業改善に努めることが大切です。

## □ 7 質問調査の結果（本市の実態）

### 【全体考察】

下記の項目において「○」とされているものは、全国や県と比較してポジティブな評価が上回っている当市の児童生徒の強みであり、「◆」は全国や県との比較においてポジティブな評価が低い傾向が見られ、支援等対策が必要と思われる弱みの項目である。

#### <挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 自分にはよいところがあると思っている児童生徒が多い。また、先生が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童生徒も多い。先生方が児童生徒としっかり関わることが自己肯定感の高まりにつながっている。
- 多くの児童生徒は、人が困っているときに進んで助ける、いじめはどんな理由があってもいけないことだ、人の役に立つ人になりたいと考えている。
- 友達関係に満足している児童生徒、普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある児童生徒はそれぞれ約90%である。また、学校に行くことが楽しいと思っている児童生徒は約80%である。それぞれポジティブな評価は高いが、ネガティブな評価をしている10～20%の児童生徒の思いに寄り添っていくことも大事にしていきたい。
- ◆困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した児童生徒は約70%である。学習面だけでなく様々な悩みをいつでも相談できる環境づくりと児童生徒にSOSの出し方を身に付けさせることが必要になってくる。
- ◆学級で人と違う意見を言っても否定されないと思っている児童生徒は約60%である。安心して考えを伝え合える雰囲気醸成が必要である。

#### <学習習慣、学習環境等>

- ◆学校の授業以外での読書の時間、昼休みや放課後に本を読んだり学校図書館に行ったりする回数は小・中学校ともに全国平均、県平均より少ない傾向がある。また、新聞を読んでいる頻度は全国平均、県平均より少なく、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童生徒は約80%である。

#### <ICTを活用した学習状況>

- 多くの児童生徒が、学習の中でパソコンやタブレットなどのICT機器を使って文章を作成すること、情報を収集すること、プレゼンテーションを作成することができると回答している。実際の使用についても、週3回以上使用していると回答した割合は、小・中学校ともに全国平均、県平均より高くなっている。今後も積極的な活用に向けた支援を継続していく必要がある。

#### <主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 多くの児童生徒が、友達や周りの人の考えを大切にして、協力しながら課題の解決に取り組んでいる。また、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると捉えている。日頃から「話し合い活動」を取り入れるなど、工夫した授業づくりを行っている成果と考えられる。
- ◆自分の考えがうまく伝わるように話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童生徒は約60%（全国平均約65%）である。自分の考えをもつこと、必要な情報を選択・整理して考えを発表する活動の工夫が必要である。

#### <総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳>

- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童生徒は約85%である。学級をよりよくしようという意識をもって学校生活を送っていると考えられる。
- 道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒は約90%である。多くの学校で「考える道徳」「議論する道徳」を意識した授業が展開されていることがうかがえる。

### <学習に対する興味・関心や授業の理解度等>

○多くの児童生徒は、どの教科の授業も、将来、社会に出たときに役に立つと回答している。

◆勉強が好きだと回答した児童生徒は、国語では約55%、算数・数学では約45%である。英語においては、小学校では約65%だが、中学校では約45%である。学習活動を工夫したり、学習したことを普段の生活でどのように活用できるかを児童生徒に考えさせたりするなど、児童生徒の興味・関心を高めるようにする必要がある。

◆書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたと回答した児童生徒は、小学校では国語及び算数で約25%、中学校では国語で約25%、数学で約45%であり、全国平均、県平均よりやや高くなっているが、普段から書く活動を取り入れることはもとより、自分の考えを整理して表現すること、書く目的や伝える相手に応じた書き方を選択し、書く力を身に付けることも求められる。

### 【総括】

上記の結果から、当市の児童生徒の意識は以下のように考えられる。

当市の児童生徒は、自己有用感が高めであり、困っている人に対しても助ける気持ちや人の役に立ちたいという心も強くもっている傾向がある。また、いじめに対しても理由を問わず「やってはいけない」という気持ちがある。

しかし、自分が不安なときや困っているときに周囲の大人に相談できない児童生徒が少なからずおり、この点のサポートが課題となっている。

学習習慣に関しては、授業時間以外での家庭での勉強時間が短い傾向にあることが課題として挙げられる。ゲームの時間とSNSや動画視聴の時間等が比較的長いことが関係していると思われる。

授業に関しては「話し合う活動」は取り入れられているものの、学んだことを生かし、自分の考えをまとめる部分は弱いと認識している児童生徒が多い。このことから授業では、学んだ知識及び技能を活用することと課題に対して自分の考えをもたせる展開を意識的に盛り込むことが課題であると思われる。

学習（教科）に対する興味・関心については、どの教科も将来に役立つとは思っているものの、教科そのものへの関心が薄く、また、記述を求められる問題に対しては諦める傾向の児童生徒も少なからずいる。学習（教科）に対する興味・関心や臨む態度の育成を図るためにも、題材との出合わせ方や授業展開の工夫など、知的好奇心を刺激する工夫が必要だと思われる。

当市の児童生徒の傾向は、これまで同様「心はいいものをもっているが、その心を生かす基本的な力とスキルに足りない部分がある」ということが言える。これらの課題の解決には、これまで以上に心に寄り添う個別の支援と授業改善及び知的好奇心を刺激する仕掛けの工夫が必要ではないだろうか。

## □ 8 学力と相関関係があった質問項目

質問の回答と学力の相関関係を比較し、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が、そうでない回答をした児童生徒の平均正答率よりも全教科10ポイント以上高い内容である。

ただし、相関関係については、あくまでも「～が関係ありそうだ」という傾向を捉えるものであり、「正答率が高いのは～が要因だ」というように原因を特定するものではない。

### ■ 小学校6年生・中学校3年生 共通

- 自分には、よいところがあると思いますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
- 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。
- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。
- 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- 前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
- 総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか。

### ■ 小学校6年生

- 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

### ■ 中学校3年生

- あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

### 【総括】

多くの項目において、相関関係が見られた。小・中学校において、上記項目の意識が向上するような教育が日常的に行われる教育課程を実践していくことが、児童生徒の学力の下支えになると思われる。教科はもとより、特別活動や道徳科の授業づくりの充実を、学校づくりの指標として捉えていくことが必要である。

## □9 むつ市教育委員会の学力向上の取組

### ○児童生徒の意欲向上に向けて

むつ市総合学力調査結果の個票の見方を示した資料を作成し、学校を通じて説明・配付し、事後の学習に生かすことができるようにしています。

※サンプル資料

| 教科 | 得点   | 順位   | 偏差値  |
|----|------|------|------|
| 国語 | 52.0 | 55.9 | 55.6 |
| 数学 | 38.7 | 55.1 | 59.5 |
| 英語 | 91.2 | 70.5 | 90.0 |
| 社会 | 80.6 | 50.1 | 85.7 |
| 理科 | 52.6 | 57.2 | 58.0 |

【国語】

| 項目    | 得点    | 順位    | 偏差値   |
|-------|-------|-------|-------|
| 漢字の読み | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 漢字の書き | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 文法・語彙 | 75.0  | 75.0  | 75.0  |
| 読解力   | 68.7  | 68.7  | 68.7  |

【今の自分を知る】

□自分の結果と、むつ市の結果とを比べてみましょう。  
□今回がんばった教科と、もう少し頑張る必要があった教科も確かめてみましょう。

【教科を知る】

□各教科の、良かった内容・もう少しがんばる必要があった内容などめてみましょう。  
□得意な教科でも苦手な内容や、苦手な教科でも得意な内容なども確認しましょう。

小学2年生～6年生にAI機能搭載のタブレット端末用ドリルを導入し、個々の正答率やむつ市総合学力調査結果を反映した問題に取り組むことができます。



英語への興味・関心を高めるために、英検の半額補助や、英検IBAの実施と英検ESGの推奨を行っています。  
(いずれも、受験案内や手続等に関わる補助を実施。)

英検IBA

中学生全員を対象

英検ESG

希望する小学校の6年生を対象

### ○教員の指導力向上に向けて

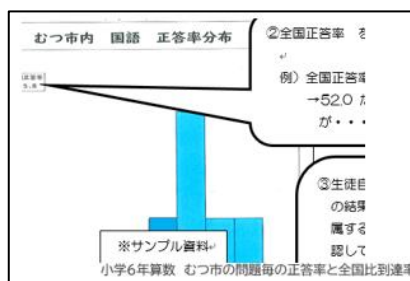
各教科の授業づくりや就学事務、幼・保・小連携など、教員の指導力向上や学校運営及び教育活動の充実を図るための講座を開催しています。

| 令和8年度 教職員研修講座等一覧 むつ市教育研修センター |                                                                             |                                                                            |                                                                                                                                                             |
|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| No.                          | 講座名                                                                         | 対象                                                                         | 内容                                                                                                                                                          |
| 1                            | 不登校支援プログラムⅠ<br>～学校主体で進める不登校支援～<br>◇4月30日(木)<br>◇13:30～16:00<br>◇むつ市教育研修センター | ◇むつ市内<br>小・中学校管理職<br>◇むつ・下北<br>小・中学校教員<br>(兼課教含む)<br>自立支援相談員の希望者<br>-むつ必修- | 本プログラムⅠでは、未然防止のための学校づくりや、具体的な不登校支援の在り方について情報提供します。また、校内教育支援センターの充実を図るため、むつ市教育支援センターの施設を見学し、その支援の実際や役割について講義を行います。<br>◇講師 FR式不登校対策チャート研究会<br>代表 川崎 久壽(心理学博士) |
| 2                            | むつ市就学事務説明会・<br>就学相談研修会<br>◇5月28日(木)<br>◇13:30～16:00                         | ◇むつ市内<br>小・中学校教員<br>◇むつ市内<br>幼稚園・保育園等                                      | むつ市の就学事務についての説明と、各学校や保育園・幼稚園等における就学相談の留意点等についての講義を行います。<br>◇講師 スクールコーディネーター                                                                                 |

教員が、県外の最新情報を学ぶことによって、資質・能力を伸ばすことができるよう、研究大会への派遣助成を行っています。



むつ市総合学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果をもとにした資料を小・中学校に提供し、事後指導の充実を図っています。



計画訪問や要請訪問の他に、学校からの要望に応じて随時訪問や日常ミニ訪問を行い、学力の向上や生徒指導の充実など各校の取組を支援しています。

随時訪問

通年

提案授業参観

↓

研究協議会等

日常ミニ訪問

※指導案不要

通年

日常の授業参観

↓

授業者との話し合い等

## ○ICTの活用として

児童生徒にタブレット端末を配付し、授業や家庭学習などの様々な場面で有効活用しています。



文部科学省「学びの保証・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」を活用しデジタル教科書を導入しています。

外国語活動・外国語

算数・数学



市内全小学5年生～中学3年生    市内約6割の児童生徒

学習や活動の一層の充実を図るために、児童生徒のタブレット端末に随時、アプリを追加しています。



市内の小・中学校に、電子黒板及び大型モニターを配備し、視覚的に理解しやすくしたり、考えを共有しやすくしたりしています。



## ○人員配置等による支援として

特別非常勤講師9名を配置し、専門性を生かした学習指導を担当しています。

小中一貫教育非常勤講師を配置し、複式指導の解消や乗り入れ授業など、実態に即した指導を行っています。（市内5つの中学校ブロックに1名ずつ配置）



スクールサポーター（支援を必要とする児童生徒のサポートをする）を配置し、児童生徒の活動を支援しています。（市内小学校8校、中学校3校に計36名）

外国語指導助手（ALT）を配置し、外国語活動や外国語授業をサポートしています。（5名が分担して、市内全小・中学校を訪問）



## ○その他

ホームページ「むつ市教育委員会 学校教育課 情報ポータル」を開設し、市内小・中学校の紹介や、学習支援サイト、公募事業等を掲載しています。

一般・児童生徒向けサイト



学習に役立つコンテンツ・リンク

教職員専用ページ



指導に役立つコンテンツ・リンク

## □ 10 保護者の皆様方へ

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されました。保護者の皆様にとっても、結果は心配事の一つであると思いますので、我々教育委員会では、子どもたちの学力向上に向けた取組を一層進めていきたいと考えております。

本市では、第3次「むつ市学校教育プラン（令和5年度～令和9年度）」に基づいた取組を行い、推進目標として『郷土を愛し、高い志を持って 主体的に未来を切り拓く人づくり』を掲げております。また、『めざす学校像』の一つとして『学ぶ力を高める学校』に取り組んでいくこととしております。

デジタル技術の急速な進化など、子どもたちを取り巻く環境は変化が激しく、予測不能な状況となっています。その時代を生き抜く子どもたちの『学ぶ力』を高め、未来を切り拓く人材を輩出するために全力で取り組んでまいりますので、引き続き、ご協力、ご支援をお願いいたします。

また、特に、以下の点について、ご家庭でのご協力をお願いします。

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」を引き続きお願いします。
- ・学校での学習面や生活面、友達との出来事などを家庭でも話題にしながら、お子さんの成長を見守っていただくようお願いします。
- ・タブレット端末の持ち帰りでは、学校での事前指導を踏まえ、家庭での約束事を決め、効果的な活用をお願いします。
- ・頑張らせて褒めることで子どもは伸びます。自己肯定感を高められるように、ご家庭での温かい声掛けや励ましをお願いします。